



リアタイヤ空気圧チェックに関するお知らせ

WHILL Model F

WHILL Model F のリアタイヤは、走行時の振動を吸収することを目的として、クッション性のある空気チューブのタイヤを採用しています。このタイヤの指定空気圧は 40psi(275kPa) と高圧力設定となっています。サイズについては、Model F 専用となっており一般的に流通しているチューブを使用することができません。小サイズ・高圧力となっているためパンクをしていなくても気温や気圧の変化によって体積が変化し、空気圧が低い状態になることがあります。空気圧が低い状態で走行を続けると、乗り心地が悪化し、パンクの原因になる恐れがあります。少なくとも 1 か月に 1 回の後輪の空気圧チェックをお願いいたします。

【WHILL Model F のリアタイヤチューブの特徴】

- ・ Model F 専用サイズ設計
- ・ 米式バルブ：高圧で空気の抜けにくい米式バルブを採用
- ・ 指定空気圧：40psi (275kPa)

【空気圧チェックと補充】

空気圧のチェックや空気の補充につきましては、お買い求めいただいた販売店、お近くの WHILL 認定修理取扱店または、サイクルベースあさひの各店舗にご相談ください。また、万が一のパンクに備え、お客様ご自身でチューブを保有いただき、お店を訪問される際にご持参いただくことを推奨しております。

【空気チューブの詳細情報】

Model F で使用しているチューブの詳細やご注文方法は次の通りです。

- ・ 部品番号：31-14089-0
- ・ 商品名：リアタイヤ空気チューブ 【F】
- ・ 価格：1,000 円(税別)/1 ケ
- ・ 送料：550 円(税込)/1 梱包
- ・ 注文方法：お電話でのご注文 弊社コンタクトデスク 0800-080-4338 までお問合せください。

【空気入れの選定】

お客様ご自身で空気圧チェックや補充を行う際は、必ず米式バルブに対応した空気圧計付き空気入れをご準備ください。

【空気入れ購入時のポイント】

- ・米式バルブに対応していること。
- ・40psi (275kPa)を測定できる空気圧計が付いていること。



一般的な家庭用の自転車は、英式バルブを採用しています。空気入れのノズル形状が英式と米式で異なるため、英式用の空気入れは使用できません。ご注意ください。

【空気圧の確認方法】

- ・空気圧力計で確認する。
- ・タイヤの側面を指でつまむ、または押してみても凹みが出来ないか確認する。



- ・機体の乗った状態でタイヤの接地面を横面と後面から見て、タイヤの張り具合を確認する。

空気が抜けてしまっているタイヤ



空気が抜けていたらタイヤにたるみが生じて接地面が平べったくなる

空気がしっかりと入っているタイヤ



空気がしっかりと入っているとタイヤ接地面が丸みを帯びている

【空気を入れる手順】

- ① ホイールカバーのくぼみにマイナスドライバー等を引っ掛けて外してください。



- ② バルブのキャップを反時計回りに回して外してください。



- ③ バルブに空気入れを接続してください。



空気入れの口金にタイヤのバルブを接続し、レバーを操作してロックします。

- ④ 既定の空気圧：40psi まで空気を入れてください。空気入れの口金を外すときに少し空気が抜けるので、少し多めに入れてください。



※タイヤの側面を指でつまむ、または押して凹まないか確認してください。

- ⑤ バルブのキャップを取り付けてください。



- ⑥ ホイールカバーを取り付けてください。

